



田村市立都路中学校

学校だより 第19号

平成31年 3月15日(金)
発行責任者：校長 田中 淳一
TEL：0247-75-2009

めざす生徒像：自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できる生徒

めざす学校像：志を育む学校 学び合い、高め合う学校 信頼され、愛される学校

祝 第15回卒業証書授与式

3月13日(水)、都路中学校第15回卒業証書授与式を挙りました。卒業生22名は、多くの来賓の皆様、保護者の皆様、教職員、在校生に見守られて、愛着ある学び舎を清々しく巣立っていきました。卒業証書授与、送辞、答辞、式歌などにおいては、厳粛な雰囲気にあっても感慨深く、感動的な式となりました。校長式辞として、次のようなメッセージを卒業生、在校生に伝えました。



私が皆さんと出会ってからの2年間、成熟社会を生き抜く力を育むために、先生方や保護者、地域の皆さんと一体となって、様々なことにチャレンジしてきました。その成果が、昨年にも増して皆さんの姿に現れていることはご承知のとおりです。とりわけ、都路の特色や強みを生かした学校行事や地域イベント、部活動における活躍によって、地域に元気を与えてくれました。

中でも、皆さんの真に主体的な姿が見られた桜美林大学の学生との交流が印象に残っています。休日にもかかわらず、多くの生徒が自らの意志で参加し、大学生と一緒にピザ釜作りやイベントの企画・運営を行いました。学校と地域が融合して行うこのような学びの機会に、これからも飛び込んでください。親や先生とのタテの関係、学校の友達とのヨコの関係だけでは、人生を豊かにすることはできません。よそ者、若者である大学生や社会人、そして家族以外の大人との関係、いわゆるナナメの関係を築くことで、人生は面白くなります。日本経団連の調査結果でも、企業が新卒採用選考時に重視する要素は、1位がコミュニケーション能力、2位が主体性、3位がチャレンジ精神となっています。この



ように、本校で大切にしている資質は、実社会でも求められていることを忘れないでください。

以前担任をしていた生徒が、高校生になってから相談に来ました。「僕が高校生なのもあと1年です。高校生のうちにやっておいた方がいいことはありますか。」と彼は尋ねてきました。私はしばらく考えて答えました。「失敗しておくといいんじゃないかな。」と。勿論好き好んで失敗したがる人はいません。物事に失敗すると自信をなくすし、周りに迷惑をかけることもあります。失敗よりは成功の方がいいこともあるでしょう。しかし、失敗を極度に恐れると、新しいこ



とにチャレンジするのを避けるようになります。「何もしない」のは誰にも迷惑を掛けないし、自分も傷付きません。でも、実は「何もしない」のは、それ自体が大きな失敗である場合が多いのです。このままではまずい、何か手を打たないといけないと気付きながらも、失敗し責任を問われるのを恐れ

て何もしないまま状況だけが悪化するというのは、大人の世界でも見られることです。現状を打破しようと新たなことに挑戦すると、状況は変化します。たとえ失敗しても、そこから学ぶことが多く、次の挑戦につなげることができます。だから、私は「どんどん失敗したらいい、そのうち成功するから。」とチャレンジし続けることを勧めています。卒業生の皆さん、在校生の皆さん、「成功の反対は失敗ではない。成功の反対は、挑戦をしないことである。」という本校の教育理念を忘れずに、チャレンジを繰り返し、失敗を糧に学ぶことのできる「たくましさ」を身に付けてください。

ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手は、昨シーズンを振り返り、「毎日新しい発見が日本のときよりも多かった。変わらないとついていけない環境というのは、より実力を引き出してくれる。」と言っています。「種の起源」を著したチャールズ・ダーウィンも、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である。」と言っています。ライバルは他人ではなく自分自身です。どんなに年をとっても、どんなに苦しい状況になっても、変化を恐れず、自分の信じた使命を果たしてください。



全校ビブリオバトル決勝戦

2月27日(水)、全校ビブリオバトル決勝戦を開催しました。進行は、経験豊かな大学生2名に依頼しました。ビブリオバトルとは、お気に入りの本を持ち寄って、その魅力を5分間で紹介し合い、観戦者の投票によって一番読みたい本(チャンプ本)を決める書評ゲーム



です。今回の決勝戦に出場した9名の生徒は、緊張しながらも時間一杯を使って、堂々と話しきりました。今後は、このような経験を多くの生徒に積ませたいと考えています。ご家庭においても、読書に親しむ機会をぜひつくっていただくようお願いいたします。

文芸部と都路こども園との交流

3月14日(木)、文芸部員6名が、卒園のプレゼントを持って、都路こども園を訪問しました。文芸部員お手製の柔らかい鉛筆立てを贈られた卒園児たちが喜ぶ姿を見て、中学生のお姉さんたちからも、思わず笑顔がこぼれました。短い訪問時間でしたが、園児と一緒に写真を撮って、お話をし、ハイタッチをして、互いに名残惜しそうにしながら、園を後にしました。その帰り際、懐かしい園舎や遊具、かわいらしい掲示物を案内していただき、さらに心温まる思いでした。今後も、文芸部とこども園の交流の機会をぜひつくっていきたいと思います。

